

## L R T 導入における社会動態の変化と地方創生

経営学部 経営学科 梅村ゼミ

B4R11147 野澤 美和

### 【卒業論文概要】

欧米を中心にL R Tの導入が盛んに進むなか、2006年4月の富山ライトレールの成功により、ようやく日本でもL R T導入の可能性が見え始め、宇都宮市のほか池袋駅周辺や福井、岡山、横浜などでもL R T新設の構想が始まっている。

宇都宮市では高齢化社会問題や環境問題への関心が高まる中、2001年頃から新たな公共交通システムを軸としたネットワーク型コンパクトシティの実現を検討してきた。栃木県では、県内を結ぶ交通のネットワークの「東西軸」の強化が課題であったが、この宇都宮市と芳賀町のL R T整備計画の取組は、県内の各地域を結節する交通網のポイントになると注目されている。また、地域の課題である通勤時の渋滞解消や、工業団地の利便向上、そして、地域振興対策としてL R Tを採用した。国との協議や住民説明など難航したが、本年度中に着工する予定だ。

本研究では、宇都宮市・芳賀町のL R T導入による、人口の増加や企業誘致、高齢者の交通行動などにどのような影響があるか、14.6キロメートルもの軌道（線路）をゼロから敷設する日本初の大規模公共事業の課題について、富山県富山市等を例に比較分析し、中心市街地の活性化に及ぼす影響と、宇都宮市の新たな可能性を考察することを目的としている。

そして、少子高齢、人口減少に伴う地域変化と公共交通の関係性、地域の持つ特性を活かした地方創生を実現する装置としての「公共交通システム」の在り方を考察し、公共交通の歴史と次世代型公共交通システムの発展、L R Tの特徴やその効果等について、資料や現地の調査研究をもとにし、社会構造の変化に伴う公共交通の在り方を考察してきた。

その中で、カナダ、ヨーロッパ等の地方都市では、L R T導入により都市の魅力を向上させ、街に活気をよみがえらせている多くの事例に出会うことができた。

L R T導入は、まちの風景を一変し観光客等が増加した例や、マイカーでは通り過ぎていた街に客が戻り、活気ある街に変貌した例など経済効果や、観光客誘客の装置としての集客効果、軌道上を走行することによる交通渋滞の解消効果、加えて、景観を向上させる副次的効果も期待される。また、L R T車両は低重心、バリアフリー、低騒音、CO2削減、定時性、速達性、大量輸送等の特徴がもたらす社会環境効果もある。

L R Tを導入することは、人的交流の活発化、地域資源の活性化、高齢社会への交通対応強化等、様々な効果を生むことが分かった。